フーバーブレイン
2Q決算説明資料

（2027年3月期）

https://www.fuva-brain.co.jp/

2026年11月18日

Fuva Brain

株式会社フーバーブレイン

1 事業環境

2 2027年３月期2Q決算概要及び
2027年３月期通期業績予想

3 成長戦略

4 APPENDIX：事業概要及び中期5カ年経営計画

Copyright © Fuva Brain Limited

経営者メッセージ



代表取締役社長　奥水 英行



今、自律型AIの急速な台頭という大きな波が、社会のあり方を根底から変えようとしています。AIが自ら判断し行動する**「AIエージェント時代」**を迎え、その安全な活用には新たなガバナンス構築が急務です。

私たちフーバーブレインは、この変革をリードするため、AIの信頼と安全を守る**「日本発のAIガーディアン」**となることを目指します。

AIの進化というアクセルが強力であればあるほど、安全を担保するガバナンスというブレーキが強く求められます。
この**「AIの発展と表裏一体の巨大なガバナンス需要」**こそが当社の新たな成長エンジンであり、セキュリティ技術を核としたAIガバナンス市場を切り拓き、持続的な成長を牽引してまいります。

Copyright © Fuva Brain Limited

事業環境：セキュリティ需要が中小企業へ本格的に拡大

● **インシデントの急増とSCS評価制度の開始が、中小企業の対策需要を押し上げる**

外部環境の変化

① インシデントの報告・報道が急増

約2.7倍

漏えい等の報告件数：10月は16日間で9月全体を大きく上回る

② SCS評価制度の開始

2027年3月

★3・★4の受付開始予定。発注企業が取引先の対策状況を確認

③ EDR市場は中小企業へ裾野が拡大

+13.3%

国内EDR市場 2024年度352億4,000万円（前年度比）

中小企業の対策需要

自社の被害防止

漏えい・業務停止への懸念から対策を見直し・強化

＋

取引先への説明・対応

発注企業からの対策状況の確認・改善要請に対応

▼

対策の導入・更新
継続的な管理と記録

当社の中小企業向け既存製品群

EPP・EDR｜端末の防御と脅威の検知・対応
Eye“247” Safety Zone

UTM｜ネットワーク境界の防御・検知
Check Point Spark Firewall

資産管理｜端末・ソフトウェアの把握と管理
Eye“247” Work Smart Cloud

UTM＋エンドポイントセキュリティ等を一括提供する「**Eye“247” Safety Zone USAV Ⅵ**」も展開

当社の中小企業向け既存製品群に、大きな追い風が吹き始めている

注：①②③は外部環境に関する公表データ、需要の広がりは当社の見方であり、当社の受注・売上の実績や見通しを示すものではありません。①は全企業規模を含む報告件数（速報受付ベース）で、倍率は当社計算。③は国内EDR市場全体の数値です。詳細と注記は次頁以降。

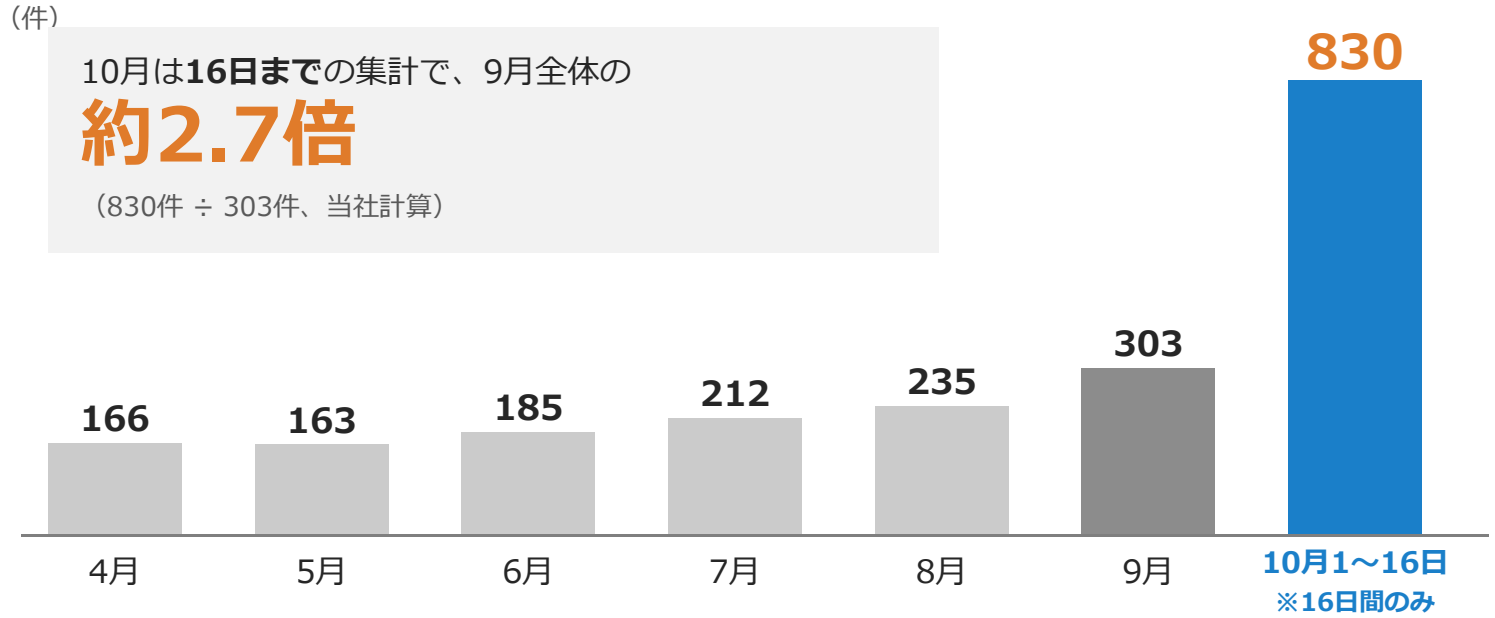
出典：個人情報保護委員会（2026年10月28日）／IPA「SCS評価制度 よくある質問」（最終更新2026年10月30日）／ITR（2026年6月18日）／当社製品情報

Copyright © Fuva Brain Limited

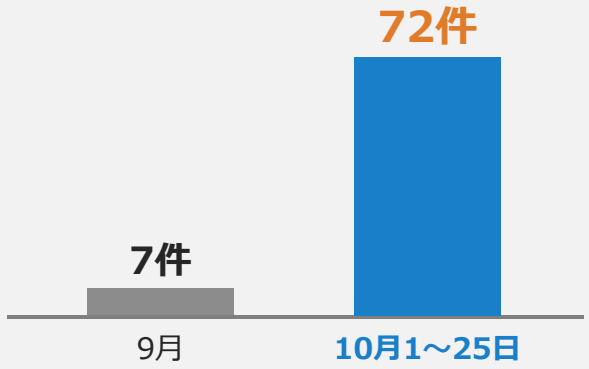
追い風①：漏えい等の報告・報道が急増し、対策強化の機運が高まる

● **不正アクセスによる漏えい等の報告は、10月16日までで9月全体の約2.7倍**

不正アクセスによる個人データ漏えい等の報告件数（2026年・速報受付月別）



報道で新たに把握された
国内の個人情報流出（共通事象）
日経電子版の報道を大和総研が集計。複数組織にまたがる同一事案を1件に集約



10月は25日までで、9月の**10倍超**

情報漏えいや業務停止への懸念が、対策の見直し・強化を促す環境

注：いずれも全企業規模等を含む報告・報道の指標であり、攻撃件数や中小企業の被害件数を示すものではありません。倍率は公表値からの当社計算（10月は部分期間）。
個人情報保護委員会：速報受付ベース（発生月別ではない）。漏えいのおそれ、委託元・委託先の重複報告を含み得る。委任先省庁経由・行政機関等の報告は含まない。確報で変動し得る。
大和総研：報道で把握した件数で、実際の攻撃・流出件数ではない。報道対象・公表時期の影響を受ける。続報は加算しない。
出典：個人情報保護委員会「最近の不正アクセスによる個人データの漏えい等の傾向」（2026年10月28日）／大和総研「個人情報流出はどの程度増えたのか？」（2026年10月30日）

Copyright © Fuva Brain Limited

追い風②：SCS評価制度が、発注企業から中小取引先への対策要請を後押し

SCS評価制度＝「サプライチェーン強化に向けたセキュリティ対策評価制度」
経済産業省・IPAによる制度。サプライチェーン全体のセキュリティ水準向上が目的

★3・★4 登録申請の受付開始
2027年3月（予定）

制度上の要求（★4評価基準）

① 大企業などの発注企業

★4の評価基準に基づき、対象となる取引先等の対策状況を**年1回以上確認**

想定される需要の波及（当社の考察）

② 中小企業を含む対象取引先

- 質問票への回答
- 対策状況の説明
- 不足する対策の検討

③ 製品・運用への需要

- 対策の導入・更新
- 継続的な管理
- 対策状況を説明するための記録

■ 根拠：★4 No.2-1-3-1「取引先のセキュリティ対策状況」

次のいずれか等に該当する子会社又は取引先が対象

- 重要な機密情報を提供・共有する
- 自社の事業継続にとって重要な位置づけにある
- 取引先の環境から発注者の内部システムへアクセスできる

確認方法の例：★取得状況の確認、訪問点検、チェックシート等

当社の考察

自社の被害防止に加え、取引先への説明・対応という観点からも、中小企業の対策需要が広がる可能性

注：★の取得は任意であり、取引上の要件とするかは契約当事者間で決定されます。本制度は全取引先の★取得や特定のセキュリティ製品の購入を一律に義務づけるものではなく、未対応を理由に直ちに取引停止を求めるものでもありません（IPA FAQ）。②③は制度の要求ではなく、当社による需要波及の考察です。

出典：IPA「SCS評価制度 よくある質問」（最終更新2026年10月30日）／IPA「SCS-620 ★3・★4 要求事項・評価基準 解説書 v1.0」（2026年10月28日）

Copyright © Fuva Brain Limited

1 事業環境

2 **2027年３月期2Q決算概要及び**
2027年３月期通期業績予想

3 成長戦略

4 APPENDIX：事業概要及び中期5カ年経営計画

Copyright © Fuva Brain Limited

2027年3月期 2Q決算のポイント

● **コア事業が大幅に伸長し、通期は大幅増収増益の予想を据え置き**

① コア事業が大幅増収

ITツール事業（前期比）

+37.6%

うちCato SASE Cloud +40.2%

ITサービス事業（前期比）

+19.7%

M&Aで子会社化した3社が寄与

調整後営業利益の減益は、前期の投資事業（株式売却益）の反動によるもの

② セキュリティ製品が好調

大企業向け｜Cato SASE Cloud 受注残

45 億円

上半期売上（13億円）の約3.5倍が、将来の売上に

中小企業向け｜セキュリティ製品

半期で過去最高

前年同期比 +36.5%。事業環境の追い風が売上に

SCS評価制度の受付開始（2027年3月予定）に向け、需要拡大の継続を見込む

③ 通期予想据え置き・AI戦略始動

通期 調整後売上高（前期比）

+36.6%

8,277百万円の予想を据え置き

通期 調整後営業利益（前期比）

+32.9%

977百万円の予想を据え置き

AIサービス第一弾「Work Smart AX」提供開始。既存顧客5社でトライアル、1社受注

足元の業績は通期予想の達成に向けて順調に推移し、下期以降も増収基調を継続

注：数値は調整後ベース。前期比は2026年3月期2Q実績との比較。セキュリティ製品の前年同期比は、半期売上高（FY2027上半期746百万円、FY2026上半期546百万円）から当社計算。詳細は各ページをご参照ください。

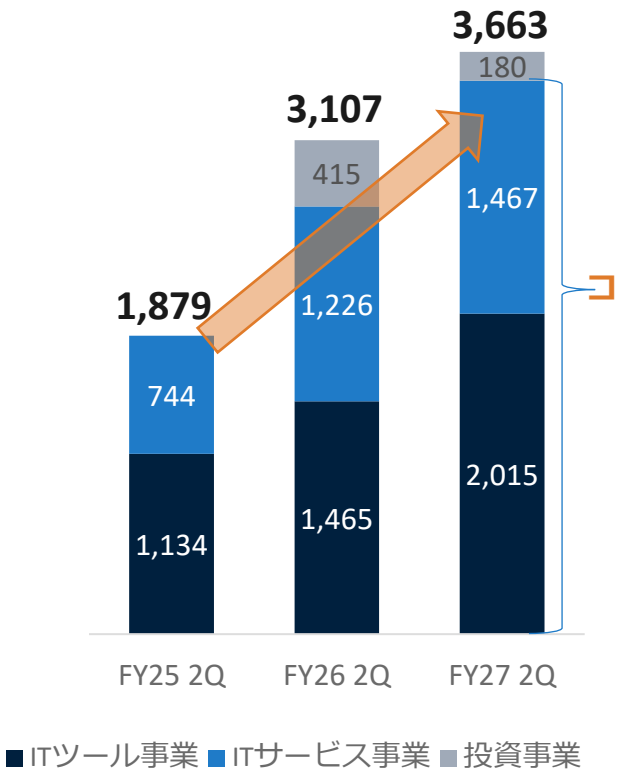
Copyright © Fuva Brain Limited

2027年3月期　2Q決算総括：コア事業は大幅増収、減益は前期の反動

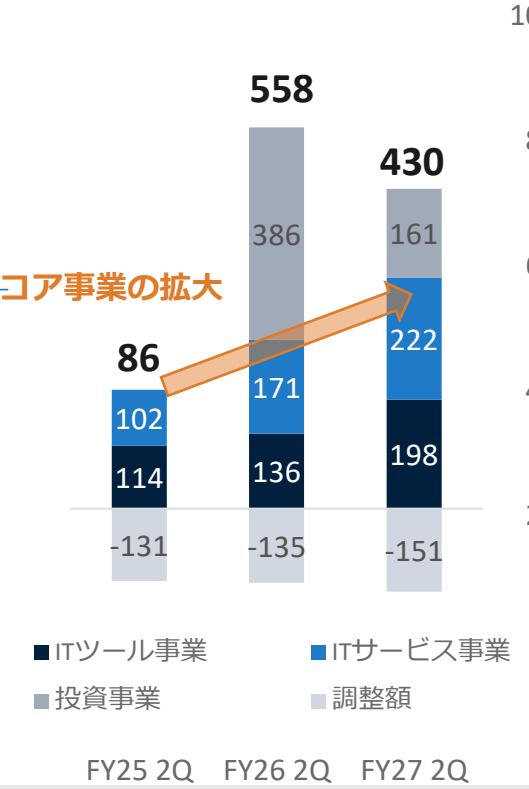
- コア事業のITツール事業（前期比+37.6%）、ITサービス事業（同+19.7%）は大幅増収で順調に拡大。
- 特にセキュリティニーズの拡大からコア事業であるITツール事業が伸長。
- M&AしたYouth Planet、ProofX、フィールドテックも業績に寄与
- 調整後営業利益の減益は、前期に有価証券売却益385百万円を計上した反動によるもの（当期は169百万円、通期売却益計画は337百万円）

調整後売上高	3,663百万円（前期比+17.9%）
調整後営業利益	430百万円（前期比▲22.9%）
当期純利益	128百万円（前期比▲55.4%）

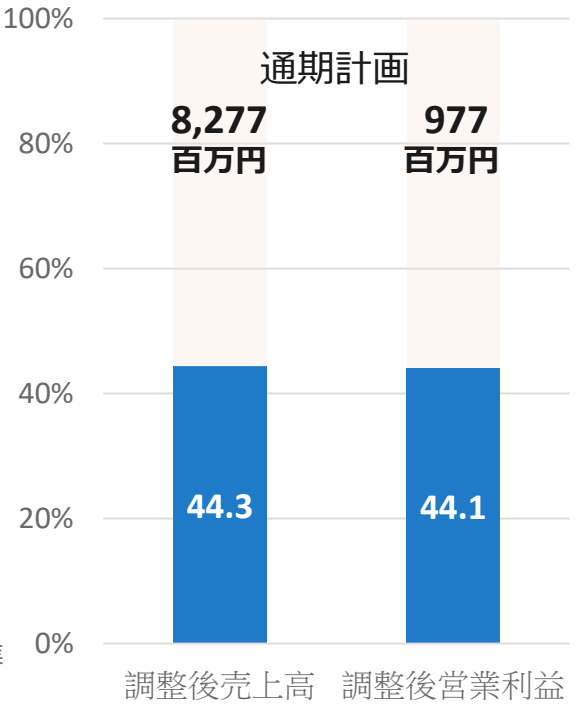
調整後売上高推移



調整後営業利益推移



進捗率%



Copyright © Fuva Brain Limited

2Q決算総括（計画通りに順調に推移）

- コア事業のITツール事業、ITサービス事業のコア事業の順調に拡大、投資事業のデジタルグリッドの株式一部売却は2Q期間で180百万円。
- 下期はCato受注残の売上計上、SCS評価制度に向けた需要拡大等で売上の積み上がりを見込む。

（百万円）	2025年3月期 2Q実績	2026年3月期 2Q実績	2027年3月期 2Q実績	利益率	前期比率	通期予想達成率
売上高（調整後売上高）	1,879	3,107	3,663	–	+17.9%	44.3%
調整後営業利益	86	558	430	11.8%	▲22.9%	44.1%
調整後経常利益	63	563	437	11.9%	▲22.3%	46.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	▲8	288	128	3.5%	▲55.4%	39.0%

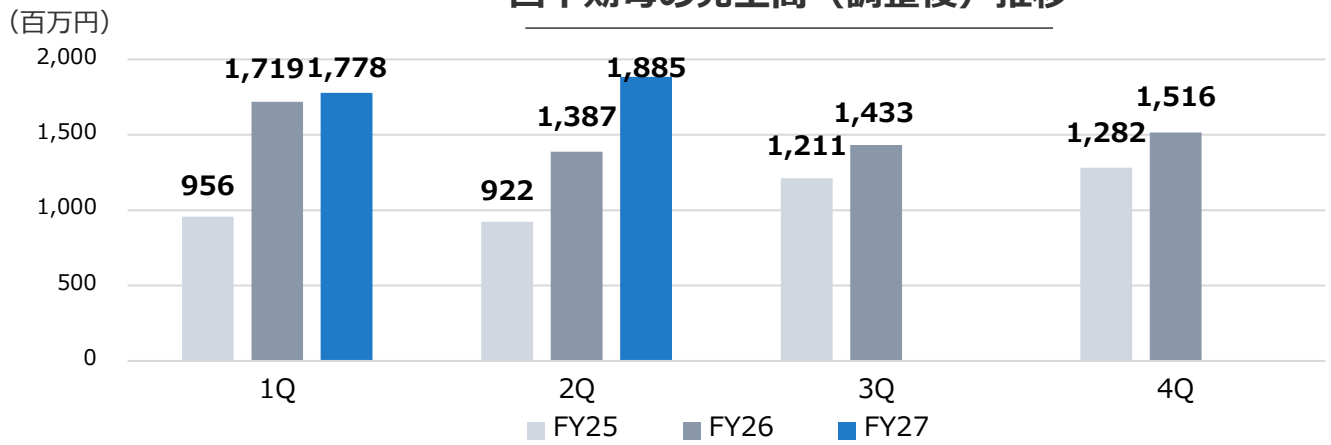
＊投資事業は子会社のフーバー・インベストメントの有価証券売却益となり、連結会計上は特別損益計上となるが事業実態面から調整後売上高、調整後利益に計上

Copyright © Fuva Brain Limited

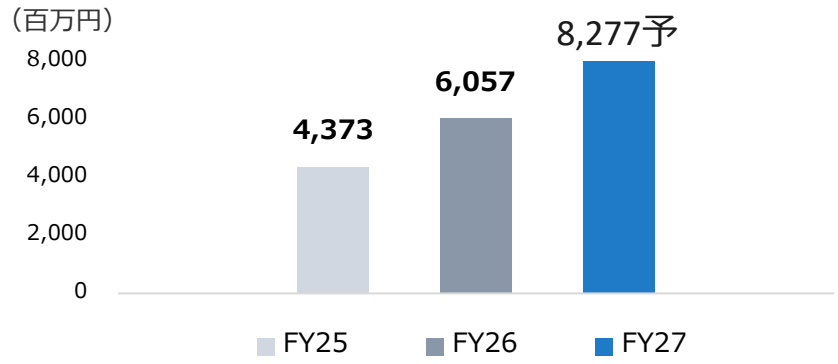
2027年3月期　四半期推移

- 2Q期間も、コア事業のITツール事業が伸長し、（連結調整）営業利益に貢献

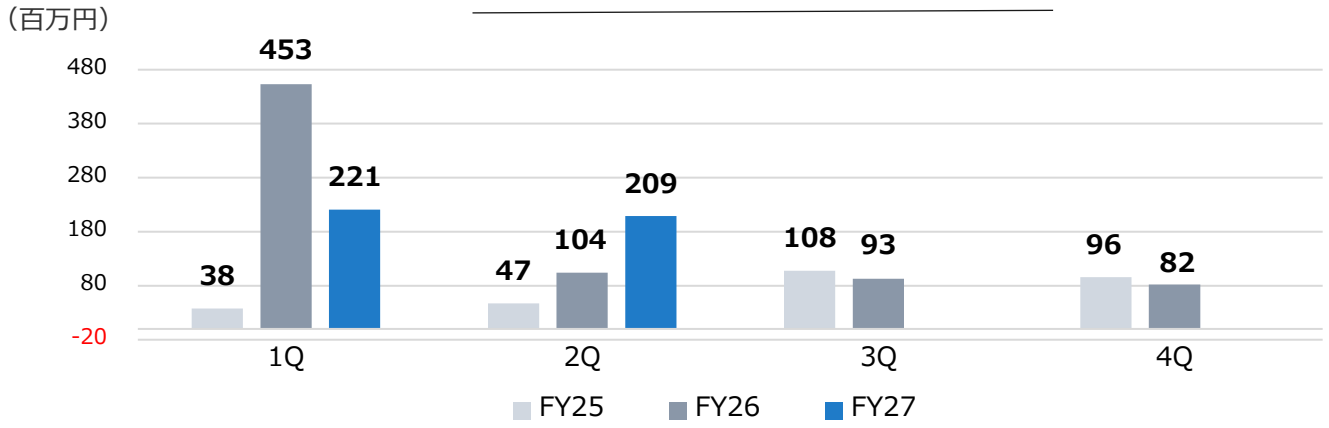
四半期毎の売上高（調整後）推移



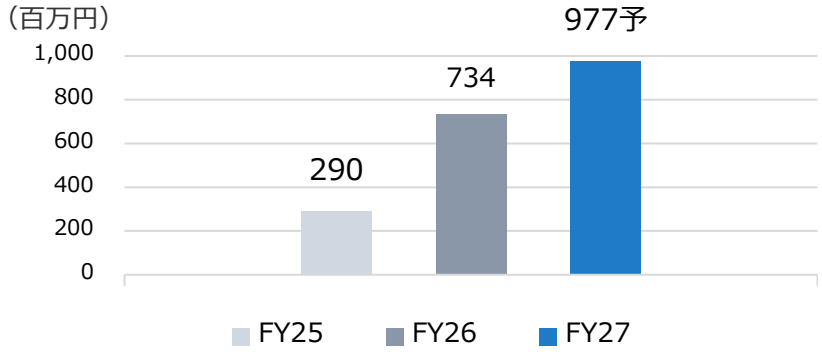
期末累計の売上高推移



四半期毎の営業利益（調整後）推移



期末累計の営業利益推移

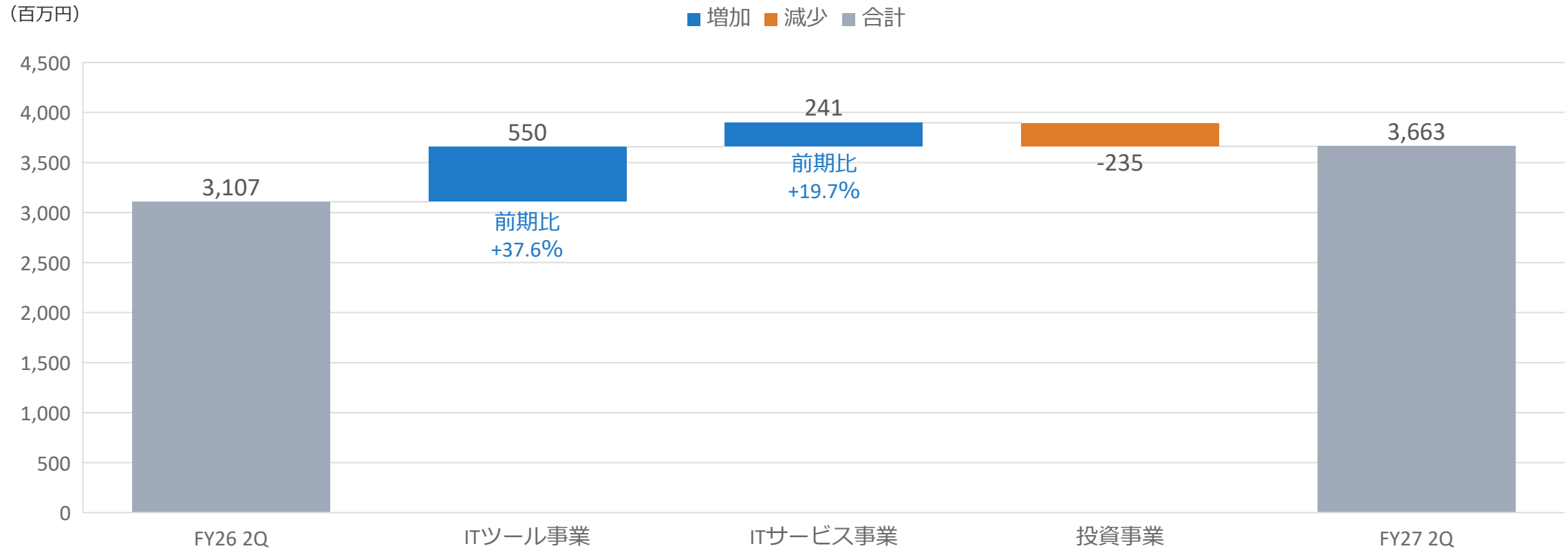


Copyright © Fuva Brain Limited

2027年3月期2Q　調整後売上高　増減要因

- **調整後売上高は、コア事業のITツール事業、ITサービス事業ともに二桁成長,**
- **投資事業は前期投資先D社のIPOによる売り出しを1Qに実施した反動減によるもの▲2.3億円**

調整後売上高増減（前期比+556百万円）



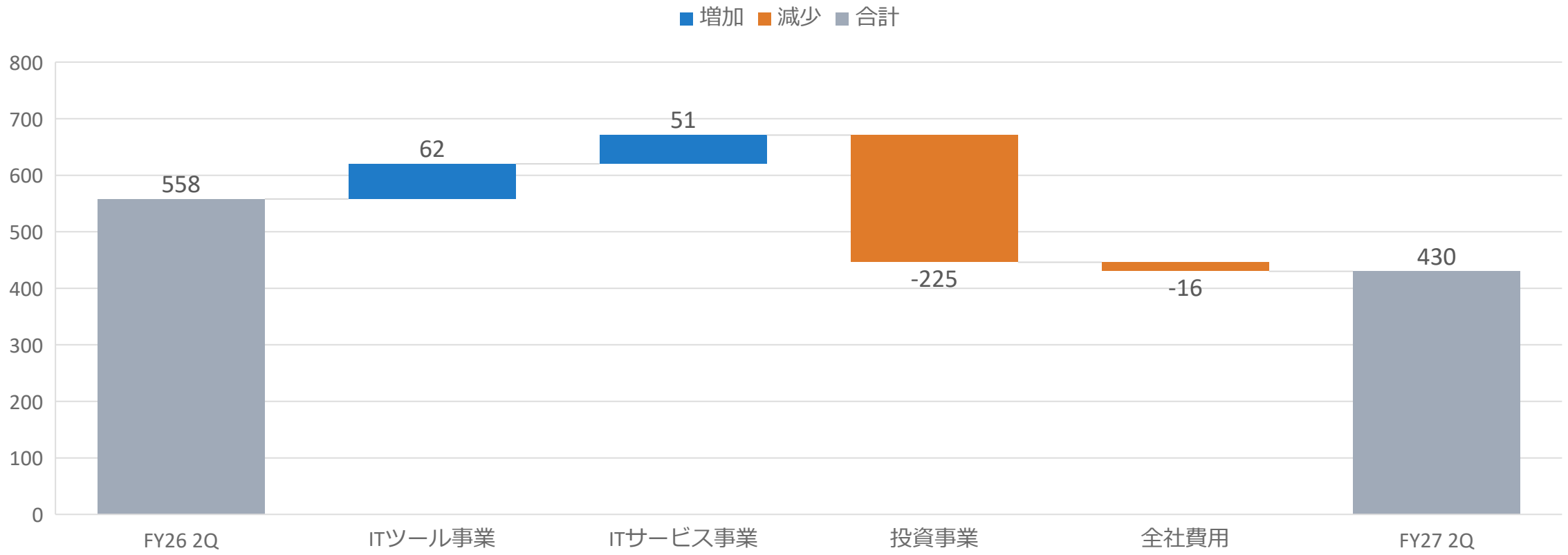
Copyright © Fuva Brain Limited

2027年3月期2Q　調整後営業利益　増減要因

- **調整後営業利益は、コア事業のITツール事業のCATOを中心としたセキュリティ製品の伸長に加え、ITサービス事業も新たにM&Aした子会社３社の貢献もあり堅調に推移。**
- **減益は前期の有価証券売却益の反動による一時的なもの（含み益約7億円）。**

（百万円）

調整後営業利益増減（前年同期比▲127百万円）



Copyright © Fuva Brain Limited

2027年3月期2Q　事業セグメント・取扱い製品別

- ITツール事業はセグメント全体として、前期比+37%
- 内訳は、成長事業の「セキュリティ＆ネットワークaaS製品」のCatoが前期比約+40%と大幅伸長、基盤事業のセキュリティ製品も+36%増を実現

- ITサービス事業は、前期末にM&Aにて子会社化したYouth Planet、ProofX、フィールドテックが加わり、前期比で19%の伸びとなった。

	2026年3月期　2Q	2027年3月期　2Q	増減額	増減率%
ITツール事業	**1,465**	**2,015**	**550**	**37.6%**
セキュリティ製品	546	746	199	36.5%
セキュリティ＆ネットワークaaS製品	856	1,201	344	40.2%
働き方改革製品（SaaS型）	61	67	6	10.3%
ITサービス事業	**1,226**	**1,467**	**241**	**19.7%**
投資事業	**415**	**180**	**▲235**	**-**
調整後売上高合計	**3,107**	**3,663**	**556**	**17.9%**

Copyright © Fuva Brain Limited

2027年3月期2Q　貸借対照表

（百万円）	2026年3月期	2027年3月期　2Q	増減額
流動資産	4,160	4,866	+706
現預金	1,910	1,873	△37
受取手形　売掛金	529	527	△1
前払費用	1,455	2,106	+651
その他	264	358	+94
固定資産	3,712	4,327	+614
有形固定資産	151	152	+0
無形固定資産	869	914	+44
投資その他の資産	2,691	3,260	+568
総資産	7,872	9,193	+1,321
流動負債	3,090	3,629	+539
買掛金	187	237	+50
短期借入金等	700	628	△71
前受金	1,649	2,303	+654
その他	552	459	△92
固定負債	2,465	3,154	+689
長期借入金	226	285	+59
長期前受金	1,806	2,496	+690
その他	432	372	△59
純資産	2,317	2,409	+91
株主資本合計	1,500	1,567	+66
その他包括利益累計等	817	842	+24
負債純資産合計	7,872	9,193	+1,321
自己資本比率	27.0%	22.4%	△4.7pt

●資産の前払費用・長期前払費用、負債の前受金・長期前受金の増加は、長期契約が中心のセキュリティ＆ネットワークaaS製品（Cato SASE Cloud）の受注が堅調に積み上がっていることを示しています。

Copyright © Fuva Brain Limited

2027年3月期　業績予想：大幅増収増益の予想を据え置き

（百万円）	2026年3月期 実績	2027年3月期 中期経営計画	2027年3月期 業績予想	利益率	前期比率
調整後売上高	6,057	7,700	8,277	–	+36.6%
調整後営業利益	735	830	977	11.8%	+32.9%
調整後経常利益	736	-	948	11.5%	+28.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	308	-	330	4.0%	+7.0%

- 2027年3月期以降でM&Aによる年２社の子会社化の計画について、2026年3月期に２社、2026年5月に１社の子会社化を行い、前倒しで計画が進捗中
- 2027年3月期の業績予想は新たな３社の業績貢献を考慮し、中期経営計画数値を上回る調整後売上高+36.6%、調整後営業利益+32.9%の大幅増収増益

Copyright © Fuva Brain Limited

セキュリティ＆ネットワークaaS製品（主要顧客：大企業）

CATO NETWORKS

セキュリティ＆ネットワークaaS製品「Cato SASE Cloud」

2027年3月期上半期の財務会計上の売上が13億円に対し、受注残は45億円。

受注残は上期売上の約3.5倍。今後の安定した売上高成長を裏付けております。

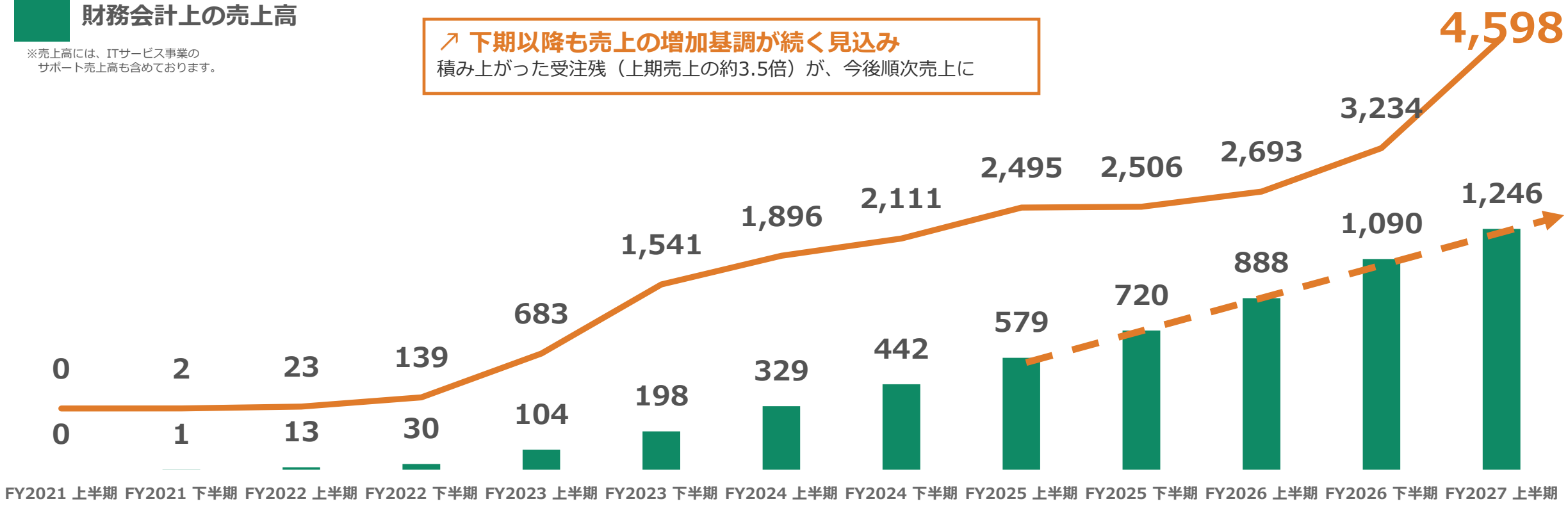
（百万円）

期末受注残

財務会計上の売上高

※売上高には、ITサービス事業の
サポート売上高も含めております。

↗ 下期以降も売上の増加基調が続く見込み
積み上がった受注残（上期売上の約3.5倍）が、今後順次売上に



Copyright © Fuva Brain Limited

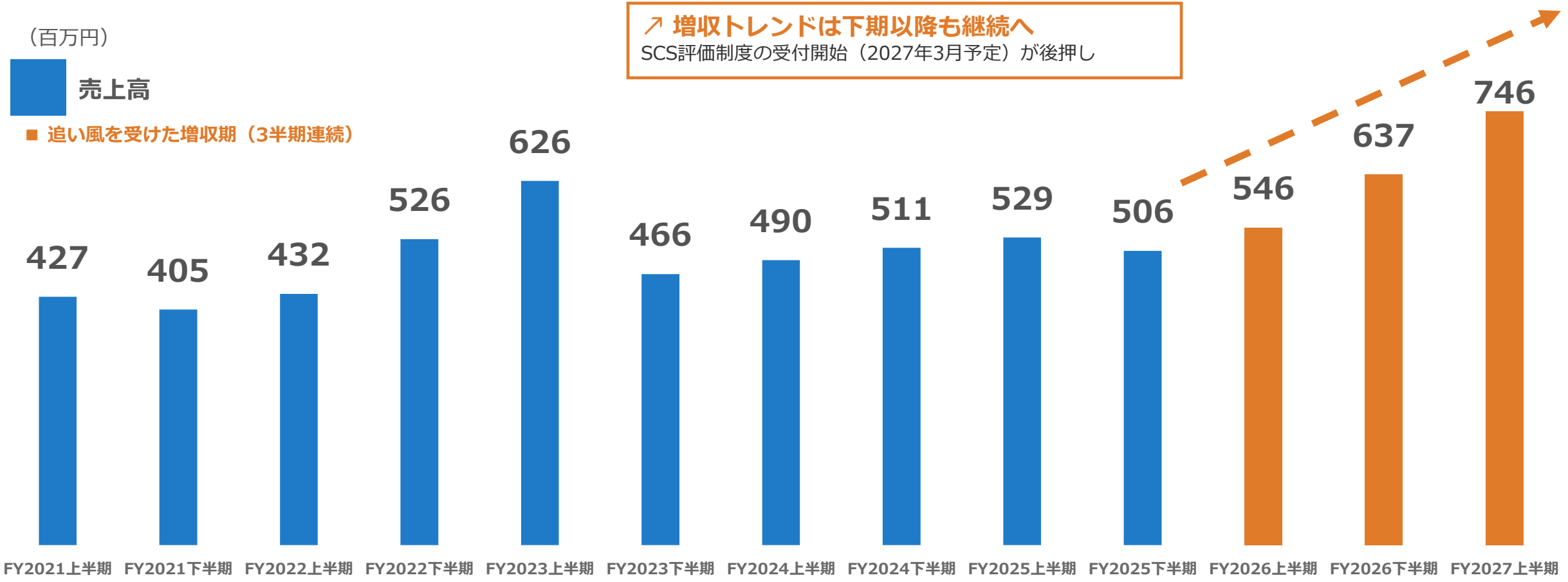
セキュリティ製品（主要顧客：中小企業）

事業環境の追い風が、FY2026上半期からの3半期連続の増収に表れる

前年同期比：FY2026下半期 +25.9%、FY2027上半期 +36.5%と伸びが加速。半期ベースで過去最高を更新

SCS評価制度の受付開始（2027年3月予定）に向け、今後も増収傾向の継続を見込む

↗ 増収トレンドは下期以降も継続へ
SCS評価制度の受付開始（2027年3月予定）が後押し

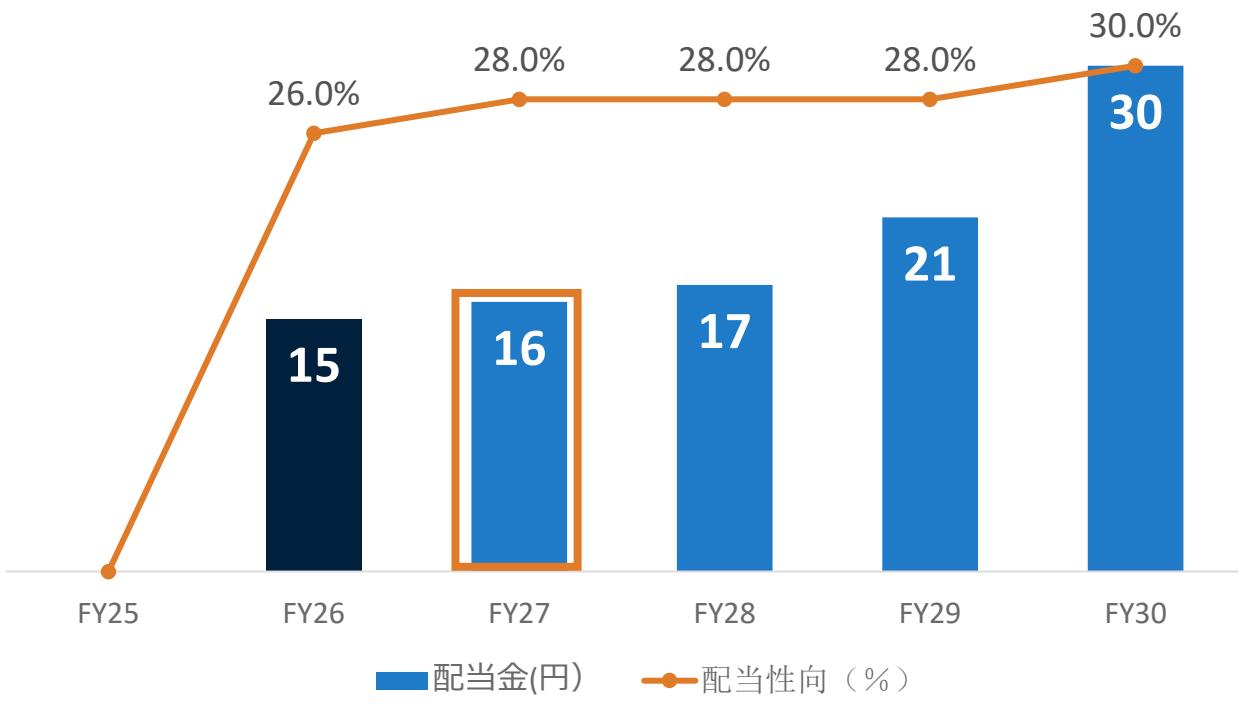


Copyright © Fuva Brain Limited

株主還元：当期は1円増配の16円予定、累進配当で配当性向30%へ

- 前期（FY26）より**初配15円配当実施**（配当性向26%）、中期的に**累進配当を実施予定**
  当期は16円配当を実施予定
- 株主優待のQUOカードも継続（100株単位以上に1,000円のQUOカード）

１株当たり配当金（円）と配当性向（%）



Copyright © Fuva Brain Limited

1 事業環境

2 2027年３月期2Q決算概要及び
2027年３月期通期業績予想

3 **成長戦略**

4 APPENDIX：事業概要及び中期5カ年経営計画

Copyright © Fuva Brain Limited

AI Guardian構想を、製品・サービスの事業化へ

● **ProofXのAI技術・専門人材を、自社製品とグループのサービスに組み込み、新たな成長戦略の実行に着手**

進み具合： 提供開始済み　開発中・順次拡張　構想

① 方向性の提示

2025年秋

中期経営計画を発表し、目指す方向性として「AI Guardian」を掲げる

AIの信頼と安全を守る「日本発のAIガーディアン」を、2030年に向けた目標に設定

② 実行体制の強化

2026年春～

- **ProofXのグループ参画**（2026年3月 子会社化）
- **夏目亮太のCAIO就任**（チーフ・AI・オフィサー）
- ProofXのAI技術・AI人材、当社のセキュリティ技術とSOC（Security Operation Center）アナリスト、グループ各社のエンジニアを結び付ける体制を整備

③ 製品・サービスへの展開

自社製品へのAI機能付加と、それを活用したサービス開発を推進

提供開始済み　**2026年11月2日～**

Work Smart AX

Work Smart CloudのPC操作ログ × ProofXの専用AI × コンサルタントによる業務改革アセスメント

開発中・順次拡張　構想

2つの自社製品で、AI機能の開発に着手

Safety Zone：リスク情報の一元管理・AI分析（2027年4月以降、順次段階リリース、2028年4月目途に本格提供）
Work Smart Cloud：業務のAI分析・把握（2027年7月以降、順次段階リリース）

既存の製品・顧客基盤・人材にAIを組み合わせ、ITツールとITサービスの双方で成長を加速する

注：開発中・構想段階の機能、サービス内容、提供時期は現時点の計画であり、今後変更となる可能性があります。
【用語】SOC（Security Operation Center）：企業のネットワークや端末を監視し、サイバー攻撃の検知・分析・対応を担う組織・機能。SOCアナリストは、SOCで監視・分析・対応方針の判断を担うセキュリティ専門家。

Copyright © Fuva Brain Limited

CAIO 夏目亮太



フーバーブレイン CAIO
ProofX 代表取締役CEO
夏目　亮太

■ 世界最高峰の国際会議での評価

AI 分野で世界最高峰の国際会議（CVPR 2019）において、
5,000 を超える論文の中から
「Best Paper Award Finalist」に選出。

■ グローバル・メガテック企業も注目する研究実績と、当社グループのAI研究プレゼンス向上

30 歳にしてAI関連論文の総引用数は2,343※1件に達し、MetaやGoogleの現役AI研究者にも数多く引用。
AI（コンピュータビジョン領域）における企業在籍の日本人研究者ランキングで世界 32 位相当※2

■ 生成AIの高難度案件に強いAI技術集団「ProofX」

生成AIで業務改革コンサルとソリューション開発を展開
自律思考型AIエージェントの社会実装にいち早く取り組む
「研究室型開発組織」により、高い収益モデルを確立
ProofXがDS（Deployment Strategist）、グループ各社がFDE（Forward Deployed Engineer）を担うチーム体制

※1 2026年3月3日時点「Google Scholar」参照
※2「Google Scholar 引用数ランキング2024版（コンピュータビジョン領域）」（Research Port公表）を参照し、夏目亮太の総引用実績から当社にて算出
【用語】DS（Deployment Strategist）：顧客の業務課題を把握し、どの業務にどのようにAIを導入するかのシナリオ（導入計画）を策定する専門人材。
【用語】FDE（Forward Deployed Engineer）：顧客の現場に入り込み、AIの実装・運用・効果測定を顧客とともに担うエンジニア。

Copyright © Fuva Brain Limited

AIサービス第一弾「Work Smart AX」提供開始、早くも受注を獲得



●**2026年11月2日**より、子会社ProofXと共同で業務改革支援サービス**「Work Smart AX」**の提供を開始。

●「Eye“247” Work Smart Cloud」のPC操作ログを**ProofX開発の専用AI**で分析し、**業務改革コンサルタント**が現場ヒアリングで検証。実現性の高い改善策を提案。

●初期サービスとして**「業務改革アセスメント」**を提供（原則1か月分のログ取得から、改善策・ROI試算の提示まで）。

●基盤の「Eye“247” Work Smart Cloud」は、ITreview Grid Award 2026 Fall 業務可視化ツール部門で**最高位「Leader」を3期連続受賞**。

●既存顧客5社でトライアルを実施し、1社のAX実行支援を受注・契約済み。

【用語】AX（AIトランスフォーメーション）：AIを活用して業務やビジネスモデルを変革すること。

Copyright © Fuva Brain Limited

自社製品のAI化を、２つの事業領域でサービス価値へつなぐ

● **製品のAI化と人材の活用を、領域ごとに段階的に進める**

進み具合：提供開始済み　開発中・順次拡張　構想

	ITツール ｜ 自社製品	ITサービス ｜ グループの専門人材	顧客価値
サイバーセキュリティ 製品開発に着手	開発中　2027年4月以降 順次段階リリース、2028年4月目途に本格提供 **AI機能を追加した Eye“247” Safety Zone** ＋AI　リスク情報を一元管理し、AIが分析・優先順位付け **既存の自社製品（販売中）**｜端末保護・EDR等	サービス構想 **AI SOC（AI Security Operation Center）** 当社のSOCアナリスト×グループの運用エンジニアがチームで、AIを活用した運用監視を提供	**SCS評価制度への対応を含め、セキュリティ運用の負担を軽減し、対応力を向上**
生産性向上 WSAX提供開始 製品開発に着手	開発中　2027年7月以降 順次段階リリース **AI機能を追加した Eye“247” Work Smart Cloud** ＋AI　AI・クラウドの活用状況も含め、業務をAIで分析・把握 **既存の自社製品（販売中）**｜PCログ管理・業務可視化	サービス構想　支援範囲は順次拡張 **AI Deployment Service** ProofXのDS×グループのFDEがチームで、AIの導入・実装・運用・効果測定まで支援 提供開始済み　具体化の第一歩（2026年11月） Work Smart AX「業務改革アセスメント」	**業務データに基づく改善提案と、AI活用で生産性を向上**

共通基盤 ｜ ProofXのAI技術・DS × 当社のSOCアナリスト × 自社製品 × グループのエンジニア（FDE・運用）

製品の機能強化を販売拡大へ、その活用をサービスの高付加価値化へ

注：「AI SOC」「AI Deployment Service」は当社の戦略上の名称であり、正式なサービス名称は今後決定します。開発中・構想段階の機能、サービス内容、提供時期は現時点の計画であり、今後変更となる可能性があります。
【用語】SOC（Security Operation Center）：企業のネットワークや端末を監視し、サイバー攻撃の検知・分析・対応を担う組織・機能。SOCアナリストは、SOCで監視・分析・対応方針の判断を担うセキュリティ専門家。
【用語】DS（Deployment Strategist）：顧客の業務課題を把握し、どの業務にどのようにAIを導入するかのシナリオ（導入計画）を策定する専門人材。
【用語】FDE（Forward Deployed Engineer）：顧客の現場に入り込み、AIの実装・運用・効果測定を顧客とともに担うエンジニア。

Copyright © Fuva Brain Limited

セキュリティ：Safety ZoneのAI統合分析機能開発に着手

● **製品ごとに分かれていた「リスク状況」と「通信の検知・遮断状況」を一元管理し、AIで分析・把握する機能をSafety Zoneに開発**

これまで ｜ 製品ごとに分かれた管理

Work Smart Cloud 資産管理
情報機器・ソフトウェアの把握、更新の適用状況

Safety Zone EPP・EDR
端末の防御、不審な挙動の検知・遮断

Check Point UTM ネットワーク境界
不正な通信の検知・遮断

Safety Zone ＋ AI ｜ 一元管理（開発）

情報機器・ソフトウェアの脆弱性等のリスク状況
これまで：Work Smart Cloud

社内外ネットワークの境界および端末における不審な通信の検知・遮断の状況
これまで：Check Point UTM／Safety Zone

Safety Zoneに集約し、一つの画面で一元管理

AIで分析・把握（開発）

統合した情報をAIで分析・把握

- AIが注意すべきリスクを優先順位付けして提示
- 会社全体の状況を把握し、リスクに早く気づける
- 運用負担の軽減と、管理・記録の効率化

提供スケジュール

開発中 **2027年4月以降**
端末＋UTMの情報統合から順次段階リリース

開発中 **2028年4月目途**
対象機器を拡張し、本格提供

構想 **その先**
PC上で稼働するAIエージェント等の監視・保護へ機能を拡張

SCS評価制度で高まる対策需要に応え、製品の販売拡大とAI SOCの基盤に

注：開発中・構想段階の機能、サービス内容、提供時期は現時点の計画であり、今後変更となる可能性があります。製品・サービスの利用のみでSCS評価制度の評価基準を満たすものではありません。
【用語】SOC（Security Operation Center）：企業のネットワークや端末を監視し、サイバー攻撃の検知・分析・対応を担う組織・機能。SOCアナリストは、SOCで監視・分析・対応方針の判断を担うセキュリティ専門家。

Copyright © Fuva Brain Limited

生産性向上：Work Smart CloudのAI分析機能開発に着手

● **AIやクラウドサービスの活用状況も含め、業務をAIで分析・把握する機能を付加する開発に着手**

現在 ｜ 既存の自社製品（販売中）

Eye“247” Work Smart Cloud

PC操作ログを取得し、業務を可視化

提供開始済み **2026年11月～**

Work Smart AX

PC操作ログ×専用AI×コンサルタントによる業務改革アセスメント

既存顧客5社でトライアルを実施し、1社のAX実行支援を受注・契約済み

追加する取得データ（開発）

① AIの利用状況

利用日時・時間・内容等の取得を検討

② クラウドサービスの業務データ

Microsoft 365等との外部API連携を候補に検討

AIで分析・把握

- AI活用状況と、業務との関連を把握
- 日常の言葉で問いかけるだけで、AIが業務データを分析し、改善のヒントを提示

提供スケジュール

提供開始済み **2026年11月**

Work Smart AX 提供開始

開発中 **2027年7月以降**

AIによる業務分析、AI・クラウド活用状況の可視化などを順次段階リリース

AI時代の業務を可視化する製品へ進化させ、製品の販売拡大とAI Deployment Serviceの基盤に

注：開発中・構想段階の機能、サービス内容、提供時期は現時点の計画であり、今後変更となる可能性があります。外部ツールは連携候補です。

Copyright © Fuva Brain Limited

ITサービス：AIを組み込んだ自社製品で、サービスを高付加価値化

● **自社製品のAI化を土台に、グループの専門人材が２つの高付加価値サービスを展開**

サイバーセキュリティ AI SOC　サービス構想

基盤となる自社製品	**AI機能を追加した Eye“247” Safety Zone** 開発中 リスク情報を一元管理し、AIが分析・優先順位付け
グループのチームで提供	**SOCアナリスト（当社）× 運用エンジニア（グループ各社）** SOCアナリスト：監視設計・リスク判断・対応方針／運用エンジニア：日常監視・一次対応・報告
応える需要	**中小企業のSCS評価制度への対応において大きなハードルとなる、会社全体のセキュリティリスクの網羅的な運用監視** EDRと運用監視をマネージドサービスとしてセット提供する動きが、中堅・中小企業での導入を後押し（ITR）

生産性向上 AI Deployment Service　サービス構想

基盤となる自社製品	**AI機能を追加した Eye“247” Work Smart Cloud** 開発中 AI・クラウドの活用状況も含め、業務をAIで分析・把握
グループのチームで提供	**DS（ProofX）× FDE（グループ各社）** DS：課題把握・AI導入シナリオを策定／FDE：顧客現場で実装・運用・効果測定を担う
ProofX単体からグループ全体へ	**ProofXが行うAI導入支援をグループ全体へ展開し、付加価値とスケーラビリティを同時に高める** 提供開始済み 第一歩：Work Smart AX（2026年11月～） 既存顧客5社でトライアル、1社のAX実行支援を受注・契約済み

高付加価値化の方向性 ｜ 製品データを起点に提案を具体化 ▶ 診断から導入・運用まで支援範囲を拡大 ▶ 継続的な運用サービスへ

自社製品 × AI × グループ人材で、ITサービス事業の高付加価値化を推進

注：「AI SOC」「AI Deployment Service」は当社の戦略上の名称であり、正式なサービス名称は今後決定します。製品・サービスの利用のみでSCS評価制度の評価基準を満たすものではありません。
出典：ITR「ITRがEDR市場規模推移および予測を発表」（2026年6月18日）
【用語】SOC（Security Operation Center）：企業のネットワークや端末を監視し、サイバー攻撃の検知・分析・対応を担う組織・機能。SOCアナリストは、SOCで監視・分析・対応方針の判断を担うセキュリティ専門家。
【用語】DS（Deployment Strategist）：顧客の業務課題を把握し、どの業務にどのようにAIを導入するかのシナリオ（導入計画）を策定する専門人材。
【用語】FDE（Forward Deployed Engineer）：顧客の現場に入り込み、AIの実装・運用・効果測定を顧客とともに担うエンジニア。

Copyright © Fuva Brain Limited

ITサービスのチーム体制：SOCアナリスト・DS × 運用エンジニア・FDE

● **SOCアナリスト・DSが戦略・判断を担い、グループ各社の運用エンジニア・FDEが顧客の現場を担う**

	セキュリティ **AI SOC** サービス構想	生産性向上 **AI Deployment Service** サービス構想
戦略・判断 SOCアナリスト／DS	**フーバーブレイン** 当社 **SOCアナリスト**（セキュリティ専門家） 監視の設計・リスクの判断・対応方針を策定	**ProofX** 子会社 **DS**（Deployment Strategist） 顧客の業務課題を把握し、AI導入シナリオを策定
	↓ 監視設計・方針を共有　↑ 検知・対応を報告	↓ シナリオ・方針を共有　↑ 現場の結果を還元
現場・実行 運用エンジニア／FDE	グループ各社のエンジニア（人材基盤を共有） **運用エンジニア** 顧客ごとの日常監視・一次対応・報告を担う	**FDE**（Forward Deployed Engineer） 顧客の現場で、AIの実装・運用・効果測定を担う
共通基盤 自社製品	**AI機能を追加した Eye“247” Safety Zone** 開発中 リスク情報の一元管理・AI分析	**AI機能を追加した Eye“247” Work Smart Cloud** 開発中 業務データの取得とAIによる分析

専門家の知見を、グループのエンジニアで多くの顧客へ広げ、付加価値とスケーラビリティを高める

ProofX単体のAI導入支援、当社のセキュリティの知見を、グループ全体の事業へ

注：体制の考え方を示したもので、詳細は今後具体化します。「AI SOC」「AI Deployment Service」は当社の戦略上の名称であり、正式なサービス名称は今後決定します。
【用語】SOC（Security Operation Center）：企業のネットワークや端末を監視し、サイバー攻撃の検知・分析・対応を担う組織・機能。SOCアナリストは、SOCで監視・分析・対応方針の判断を担うセキュリティ専門家。
【用語】DS（Deployment Strategist）：顧客の業務課題を把握し、どの業務にどのようにAIを導入するかのシナリオ（導入計画）を策定する専門人材。
【用語】FDE（Forward Deployed Engineer）：顧客の現場に入り込み、AIの実装・運用・効果測定を顧客とともに担うエンジニア。

Copyright © Fuva Brain Limited

成長戦略ロードマップ：AI Guardianの事業化

● **体制整備を終え、製品のAI化とサービスの高付加価値化へ**

実施済み・提供開始済み　開発中　構想

	2025年秋	2026年春	2026年11月（現在）	2027年4月以降	2028年4月目途	その先
グループ **体制・方向性**	**中計で「AI Guardian」を掲げる**	**ProofX子会社化 夏目亮太 CAIO就任**				
ITツール｜セキュリティ **AI機能を追加した Eye“247” Safety Zone**				**端末＋UTMから順次段階リリース→対象機器を拡張し本格提供** リスク情報の一元管理・AI分析		**PC上のAIエージェント 等の監視・保護へ拡張**
ITツール｜生産性向上 **AI機能を追加した Eye“247” Work Smart Cloud**			**Work Smart AX 提供開始**	**2027年7月以降 順次リリース** AI・クラウド活用含む業務分析		
ITサービス｜セキュリティ **AI SOC**				**SOCアナリスト（当社）×運用エンジニア（グループ各社）のチームで具体化** AI機能を追加したSafety Zoneを基盤に、SCS評価制度対応で高まる運用監視需要へ		
ITサービス｜生産性向上 **AI Deployment Service**			**業務改革アセスメント （第一歩）**	**DS（ProofX）×FDE（グループ各社）のチームで、グループ全体へ展開** ProofXのAI導入支援をグループ全体へ展開。AI機能を追加したWork Smart Cloudを共通基盤に		

製品の販売拡大 ＋ ITサービスの高付加価値化で、オーガニックグロースを強化

2030年3月期 中期経営計画目標：調整後売上高150億円・調整後営業利益15億円の達成を目指す

注：開発中・構想段階の機能、サービス内容、提供時期は現時点の計画であり、今後変更となる可能性があります。本図は新たな業績予想を示すものではありません。
【用語】SOC（Security Operation Center）：企業のネットワークや端末を監視し、サイバー攻撃の検知・分析・対応を担う組織・機能。SOCアナリストは、SOCで監視・分析・対応方針の判断を担うセキュリティ専門家。
【用語】DS（Deployment Strategist）：顧客の業務課題を把握し、どの業務にどのようにAIを導入するかのシナリオ（導入計画）を策定する専門人材。
【用語】FDE（Forward Deployed Engineer）：顧客の現場に入り込み、AIの実装・運用・効果測定を顧客とともに担うエンジニア。

Copyright © Fuva Brain Limited

1 事業環境

2 2027年３月期2Q決算概要及び
2027年３月期通期業績予想

3 成長戦略

4 **APPENDIX：事業概要及び中期5カ年経営計画**

Copyright © Fuva Brain Limited

会社概要

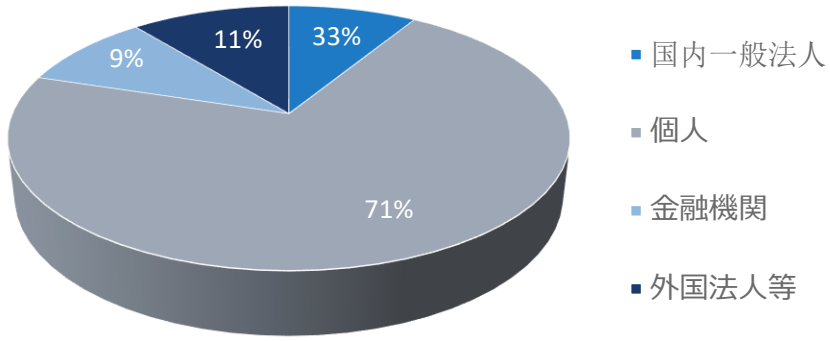
商号	株式会社フーバーブレイン　（東証STD:3927）　Fuva Brain Limited
設立	2001年5月8日
事業内容	サイバーセキュリティソリューションの提供, 働き方改革・テレワーク環境構築 IT人材サービス, 投資事業
本社所在地	東京都千代田区紀尾井町4-1　ニューオータニガーデンコート22F
資本金	796百万円（株主数 4,023名 ）　発行株式数5,604,200株（自己株式259,807株）（2026年3月31日現在）
決算期	3月31日
従業員数	251名　(外、臨時雇用20名)　（2026年3月31日現在）
役員	代表取締役社長　奥水 英行 専務取締役　板橋 啓成　　取締役　錦織 劉一 社外取締役　酒井 学雄　　社外取締役　上村 卓也 社外監査役（常勤）　日景 智久　　監査役（非常勤）香取 正康　　社外監査役（非常勤）金子 望美
ｸﾞﾙｰﾌﾟ企業	11社（2026年9月30日現在）



代表取締役社長　奥水 英行
1967年3月14日生

1989年4月　西洋環境開発入社
1993年10月　アーサーアンダーセン会計事務所入所
1997年11月　カーギルジャパン入社
2008年12月　フォンテス代表取締役（現任）
2012年5月　いずみキャピタル代表取締役（現任）
2014年5月　パルマ社外監査役（現任）
2018年6月　当社取締役副社長
2018年10月　当社代表取締役社長（現任）

2026/3末株主構成(%)
株主数：4,023名



Copyright © Fuva Brain Limited

Mission

デジタルテクノロジーで、
社会に安心を、企業に成長を、人々に幸せな働き方を。

Vision

安心・安全で、一人ひとりが笑顔で働けるデジタルプラットフォームを構築する。
デジタル社会への変革を加速する人材を確保、育成し、創造性を生かせる環境を提供する。

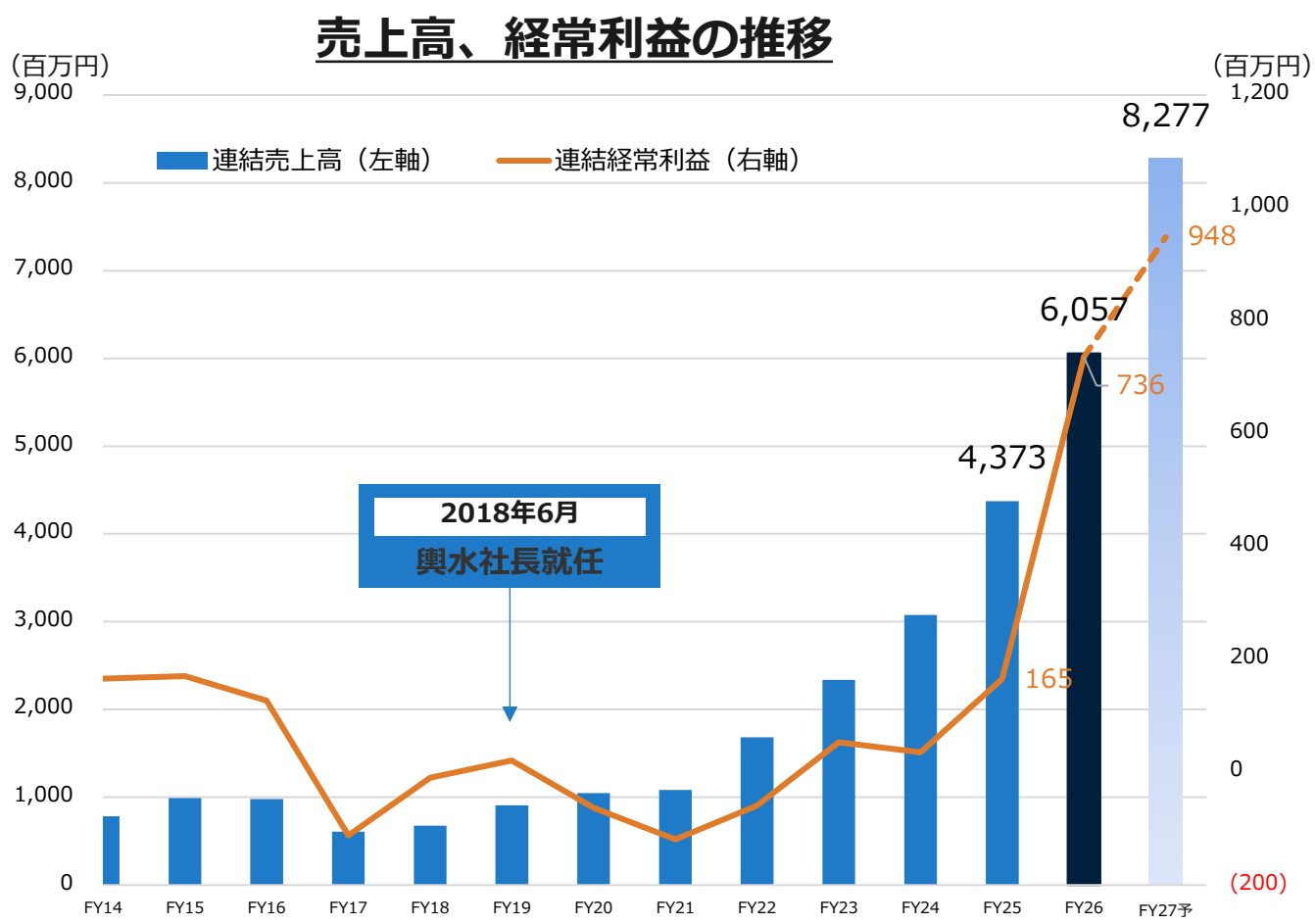
2030 Target

AIの発展と表裏一体の巨大なガバナンス需要を成長エンジンとする「日本発のAIガーディアン」を目指す。

Copyright © Fuva Brain Limited

フーバーブレインの過去からの沿革と業績推移

- 2018/6月：奥水社長就任
  - ⇒リスクをとって新規領域に挑むチャレンジング文化を醸成
  - 既存セキュリティ事業に加えIT人材サービスと投資事業開始
  - ｾｷｭﾘﾃｨ製品では「Eye“247” Work Smart Cloud」販売開始
- 2020/4月：ｲｽﾗｴﾙのCatoとﾃﾞｨｽﾄﾘﾋﾞｭｰﾀｰ契約
  - ⇒世界初のSASEプラットフォーム
- 2021/4月：人材サービス企業のM&A本格化
  - ⇒2021：GHｲﾝﾃｸﾞﾚｰｼｮﾝを子会社化
  - 2022：ｱﾄﾞﾄｯﾌﾟを子会社化
  - 2024：CONVICTION、Asemble、ｲﾁｱｰﾙを子会社化
  - 2026：Youth Planet、ProofX、ﾌｨｰﾙﾄﾞﾃｯｸ社を子会社化
- 2023/7月：投資事業のCVC子会社設立
  - ⇒ﾌｰﾊﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ設立
- 2025/11月：中期経営計画発表（2026/3期～2030/期）
- 2026/2月：東証スタンダード市場へ市場変更
  - ⇒日本発のAIガーディアンを推進中



*26/3期は調整後売上高、調整後経常利益（有価証券売却益385百万円含む）

Copyright © Fuva Brain Limited

事業領域

- **ITツール事業のオーガニック成長とITサービスのM&A成長、投資事業の成長で継続的な企業価値拡大**

セグメント領域		
ITツール事業	**ITサービス事業**	**投資事業**
フーバーブレイン、ﾌｰﾊﾞｰ・ｸﾛｽﾃｸﾉﾛｼﾞｰｽﾞ ● セキュリティ製品（ハード・ソフト） NBB(Network Blackbox) ● セキュリティ＆ネットワークaaS製品 Cato SASE Cloud ● 働き方改革製品（SaaS型）	**フーバーブレイン、GHｲﾝﾃｸﾞﾚｰｼｮﾝ、CONVICTION、Asemble、ｲﾁｱｰﾙ、ProofX、ｱﾄﾞ・ﾄｯﾌﾟ、Youth Planet、ﾌｨｰﾙﾄﾞﾃｯｸ** ● 保守・役務提供 ● 受託開発、SES ● 採用支援、人材紹介・派遣 ● モバイル通信・固定回線ネットワーク	**フーバー・インベストメント** ● 投資事業

セキュリティ製品 新商材 NETWORK BLACKBOX

セキュリティ製品 Eye24.7 Safety Zone

働き方改革製品 Eye24.7 Work Smart

セキュリティ＆ネットワークaaS製品 CATO NETWORKS

GHI Global High-Quality Integration

The valuable future 株式会社アド・トップ

CONVICTION

Asemble

イチアール

YOUTH PLANET

ProofX

FieldTech

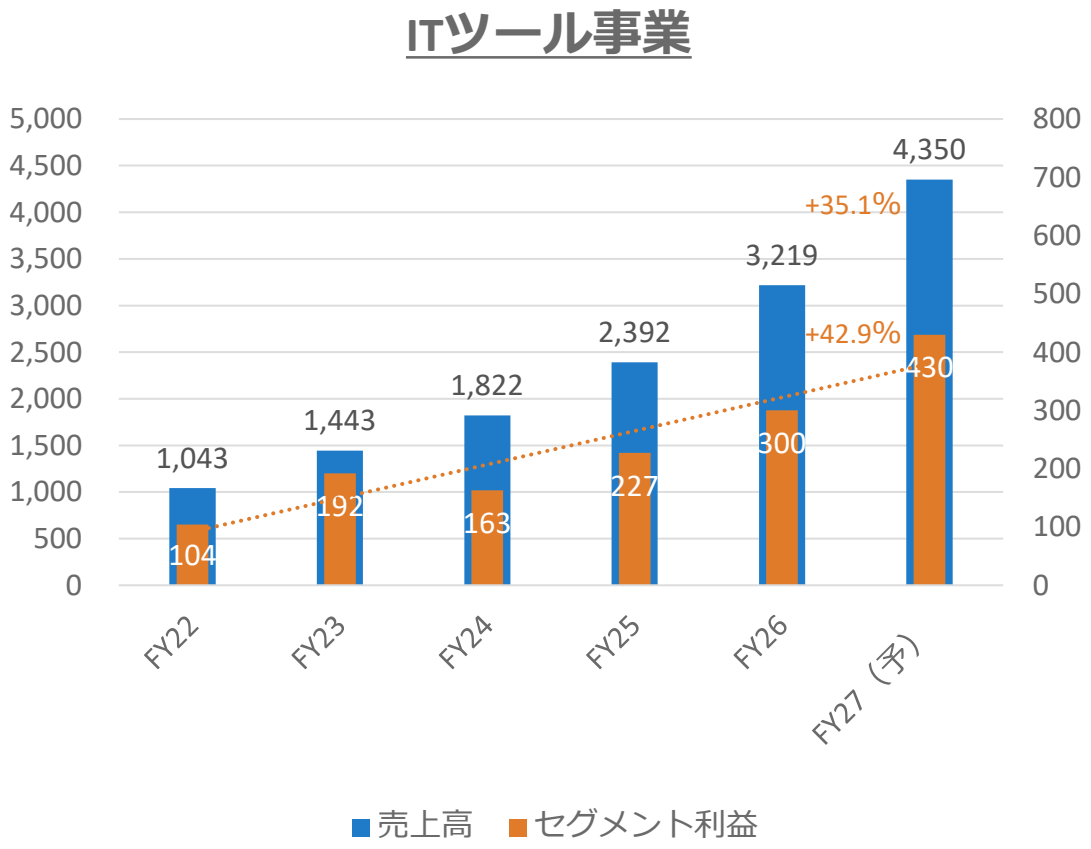
DIGITAL GRID

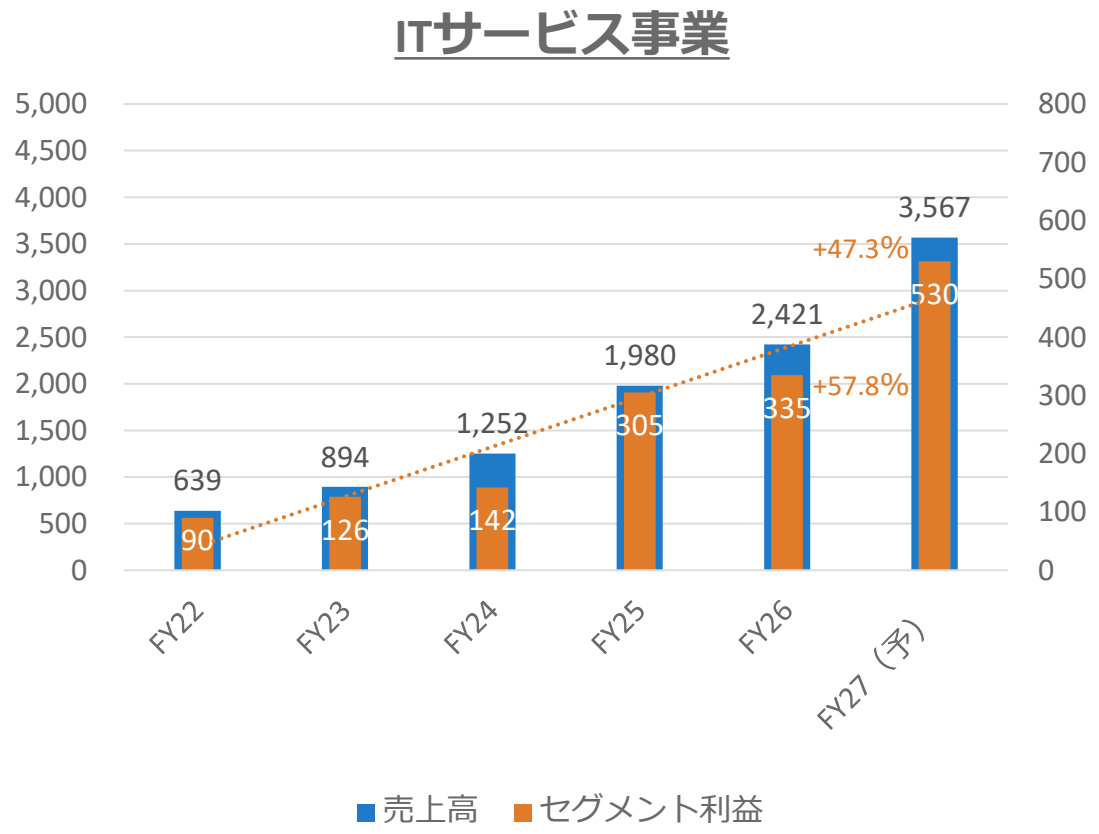
2025年4月　東証GRTにIPO

Copyright © Fuva Brain Limited

セグメント売上・利益（調整後）（ITツール事業・ITサービス事業）

- 当期予想：ITツール事業　セグメント売上高4,350百万円　利益430百万円（利益率9.9%）
  ITサービス事業　セグメント売上高3,567百万円　利益530百万円（利益率14.9%）

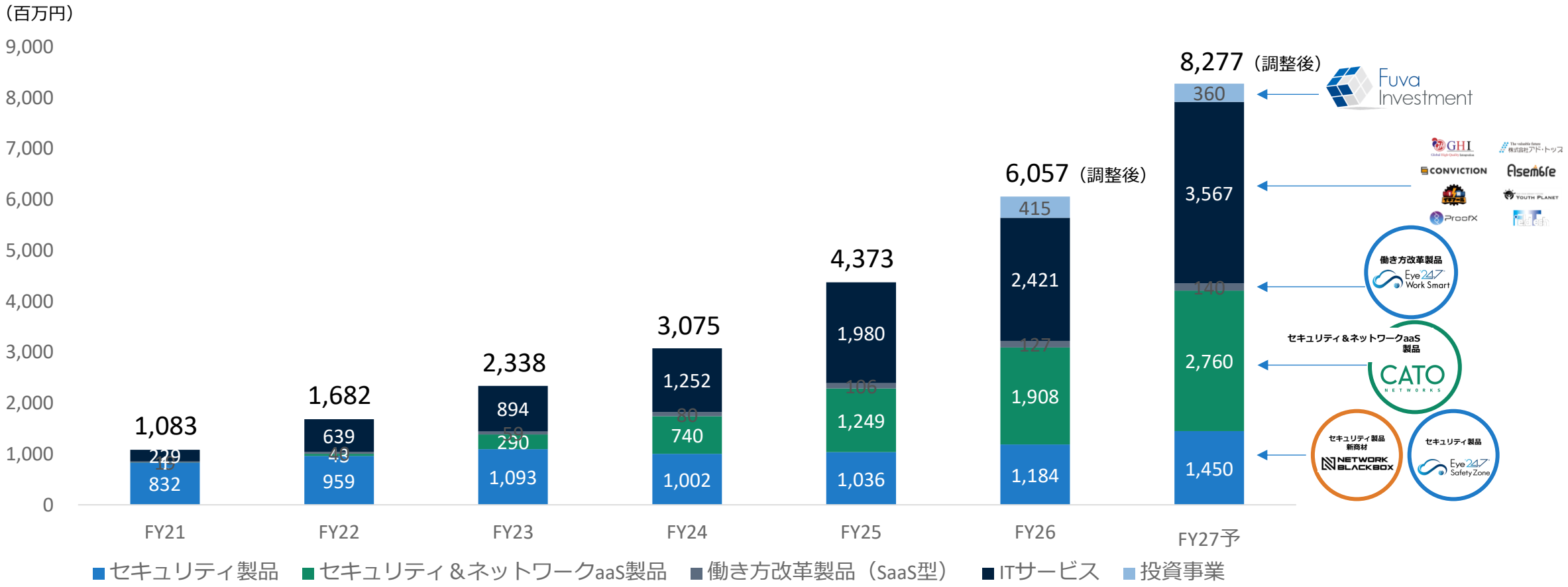




Copyright © Fuva Brain Limited

事業セグメント・取扱い製品別の売上推移

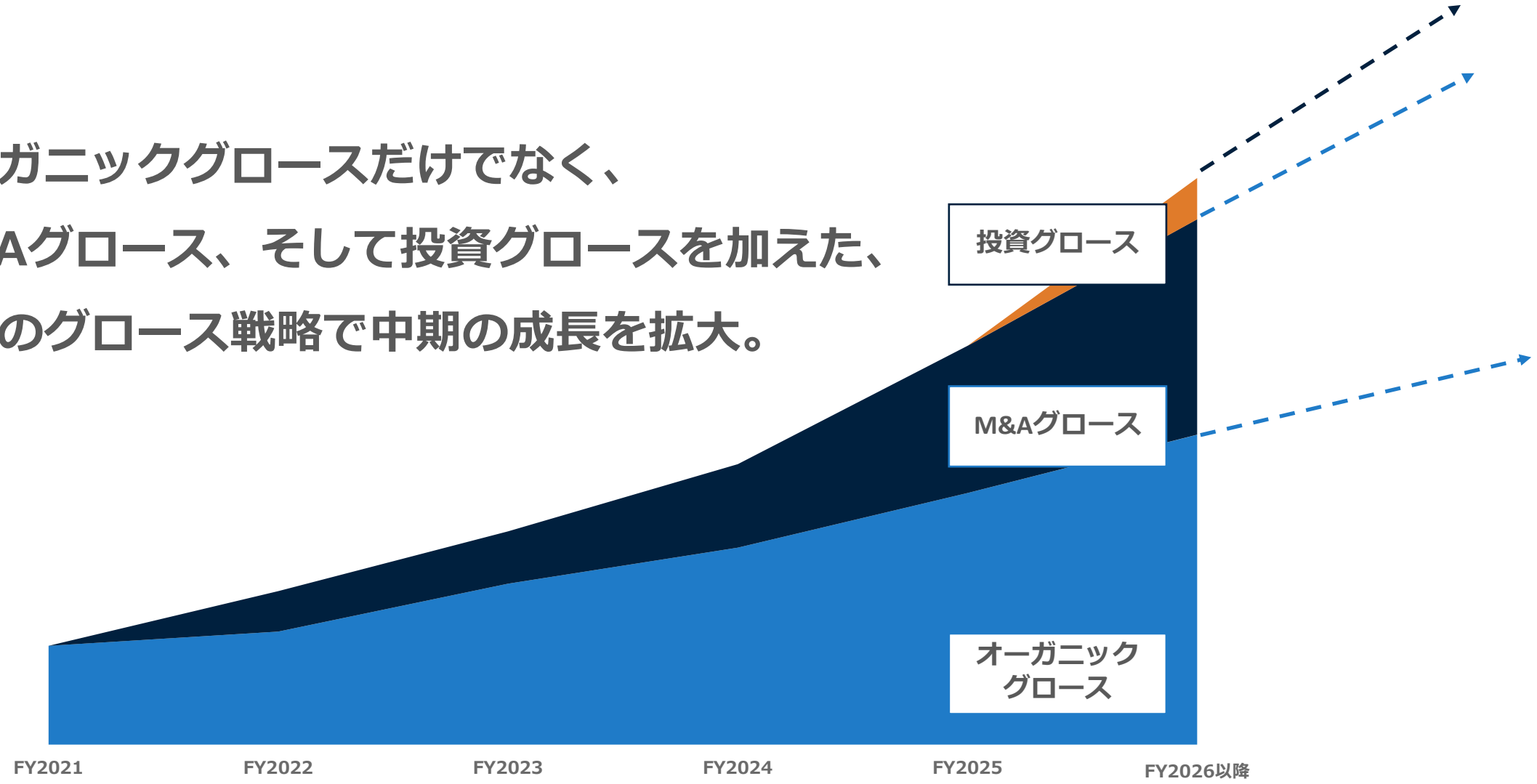
- ITツール事業（セキュリティ製品、セキュリティ＆ネットワークaaS製品、働き方改革製品（SaaS型））
- ITサービス事業（IT人材関連サービス、保守・役務サービス）：2021年以降社8社をM&Aで子会社化



Copyright © Fuva Brain Limited

当社の成長戦略

オーガニックグロースだけでなく、
M&Aグロース、そして投資グロースを加えた、
３つのグロース戦略で中期の成長を拡大。



Copyright © Fuva Brain Limited

ITサービス事業：M&A実績

GHI Global High-Quality Integration	2021年	3月	ネットワーク・通信に強みを持つIT人材会社
The valuable future 株式会社アド・トップ	2022年	11月	採用コンサルティング
CONVICTION	2024年	2月	独自教育プログラム有するIT人材会社
Asemble	2024年	9月	独自採用ノウハウ有するIT人材会社
イチアール	2024年	10月	自動化・省力化運営のIT人材会社
YOUTH PLANET	2026年	2月	人材紹介（新卒/中途）+RPOノウハウ
ProofX	2026年	3月	AX・FDEコンサルティング
FieldTech	2026年	5月	モバイル通信・固定回線ネットワーク、ITソリューション

M&A候補パイプラインとの交渉継続中

Copyright © Fuva Brain Limited

投資事業：投資実績　デジタルグリッド2025年4月IPO

一部のイグジット開始。次期中計では、毎年安定的に売却を推進予定。
今後もDXを主要テーマとした投資グロースで、更なるアップサイドを追求

DIGITAL GRID	2019年	9月	電力及び環境価値取引プラットフォーム運営
PlayMining	2021年	3月	「PlayMining」運営
	2023年	12月	サイバーセキュリティコンサルティング
Quants	2024年	3月	AI審査Fintech
Quad Miners	2024年	4月	韓国軍導入NDRベンダー
ASIAN BRIDGE	2024年	7月	Cloud型越境ECサービス
DIGITAL GRID	2025年	4月	東証グロース上場

Fuva Investment

投資有価証券含み益約7億円
継続的な安定利益計上に貢献

Copyright © Fuva Brain Limited

中期業績計画

2030年に向けた成長目標

着実な成長を継続し
収益性の向上を図る

2030年3月期 経営目標

150 億円

調整後売上高

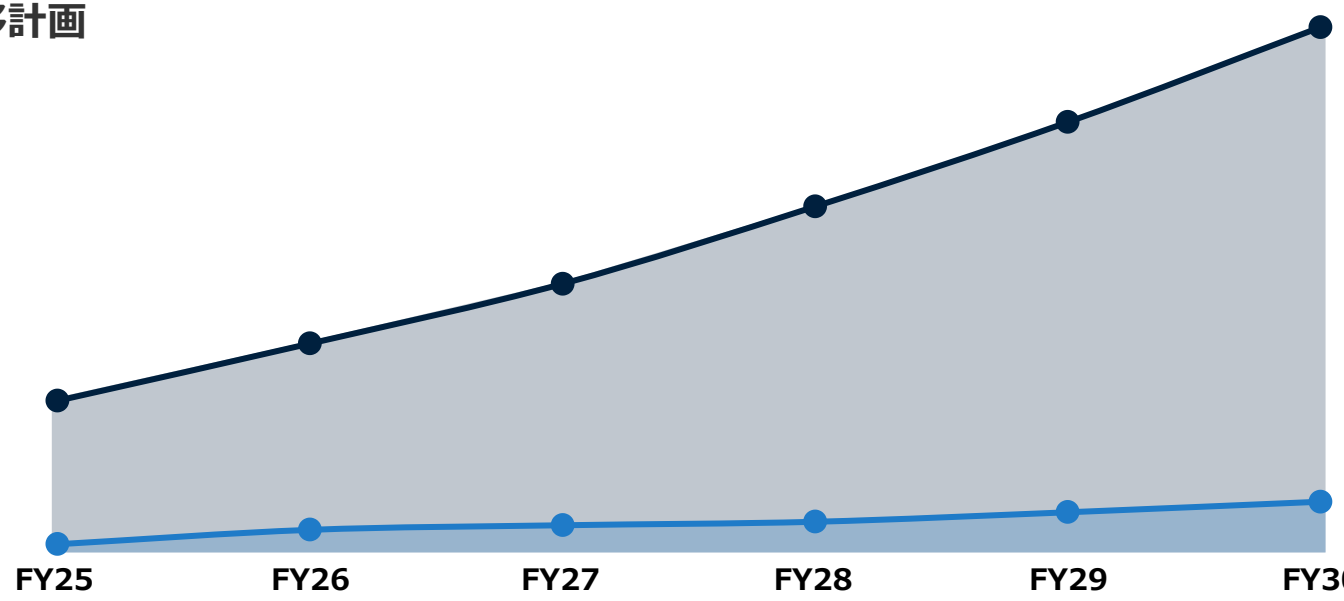
CAGR 27%

15 億円

調整後営業利益
（利益率10%）

CAGR 38%

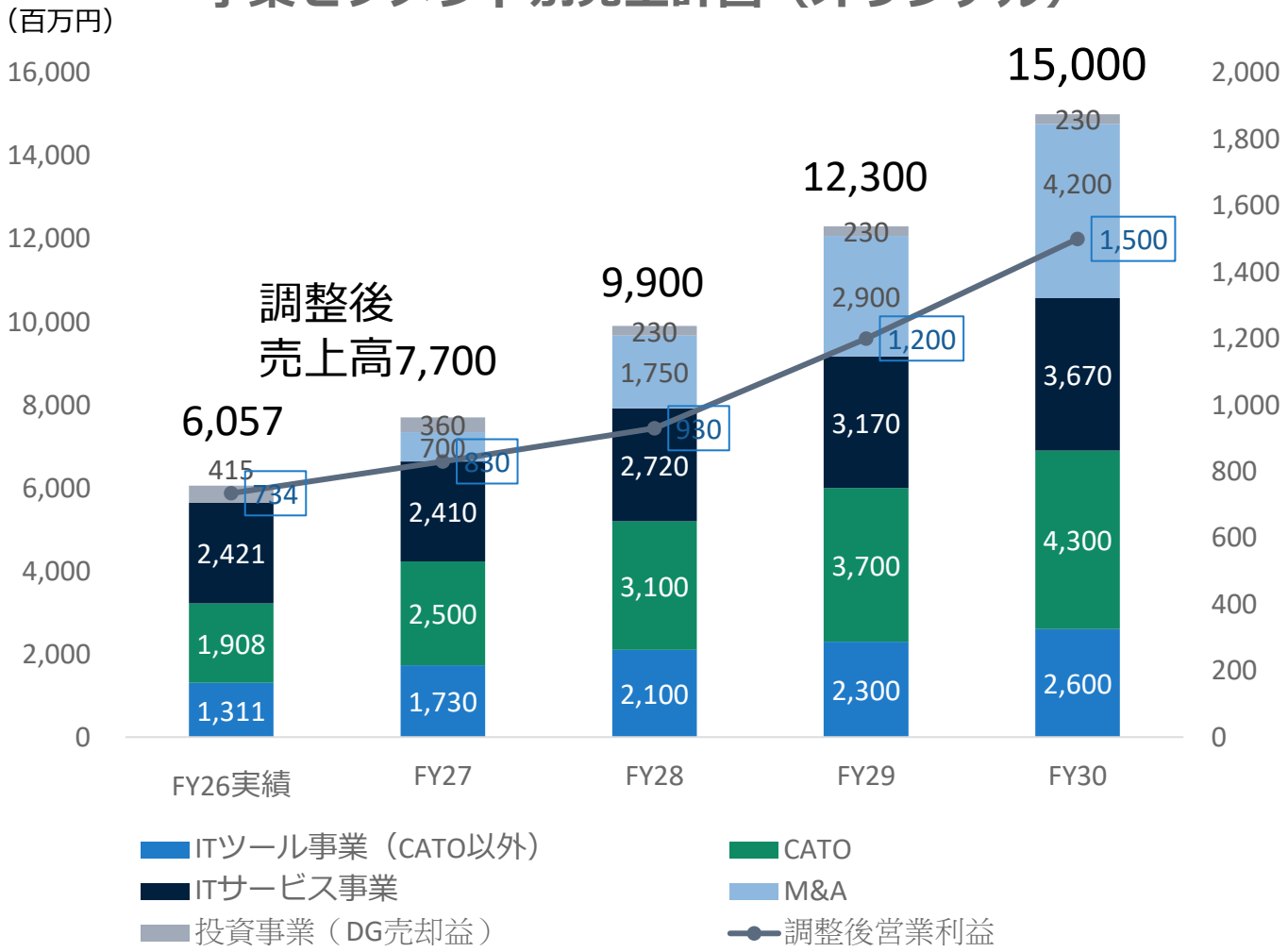
業績推移計画



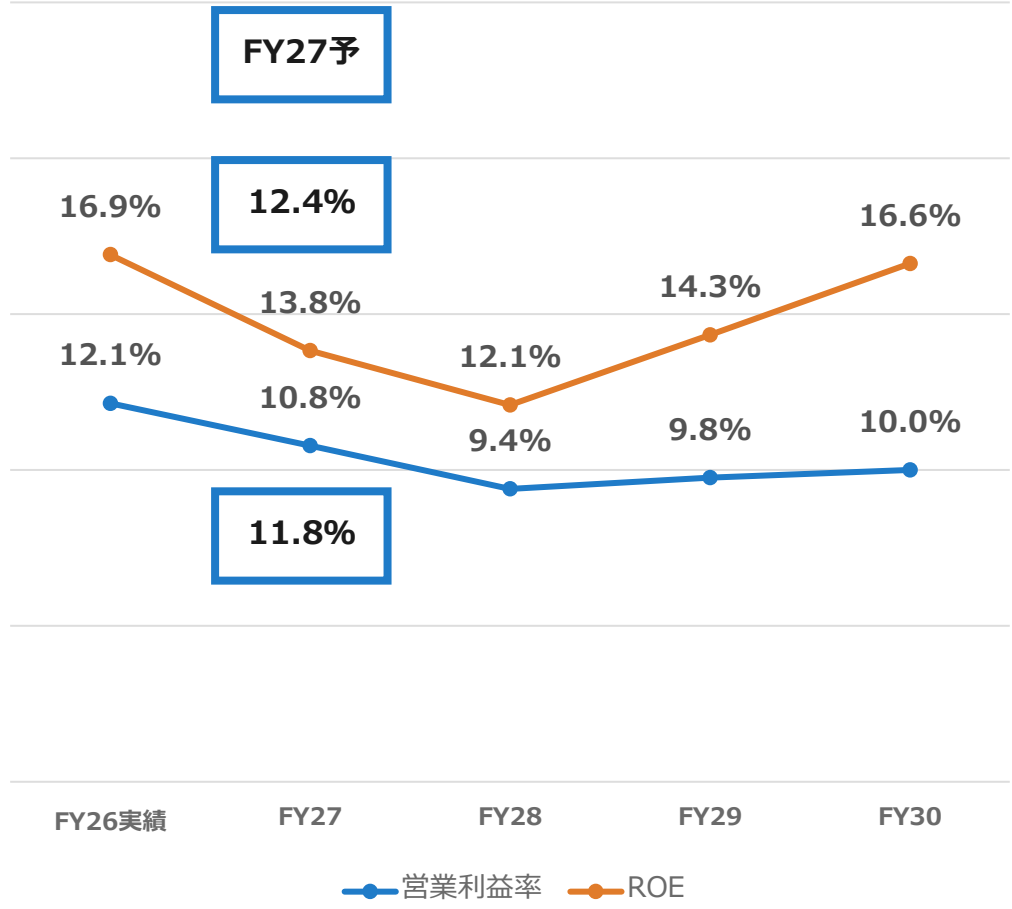
会計期間	FY25実績	FY26実績	FY27計画	FY27予	FY28計画	FY29計画	FY30計画
調整後売上高（百万円）	4,373	6,057	7,700	8,277	9,900	12,300	15,000
調整後営業利益（百万円）	290	734	830	977	930	1,200	1,500

中期経営計画　数値計画

事業セグメント別売上計画（オリジナル）



財務KPI



既発行新株予約権130万株は（当期FY27）中に全額行使を想定し算出

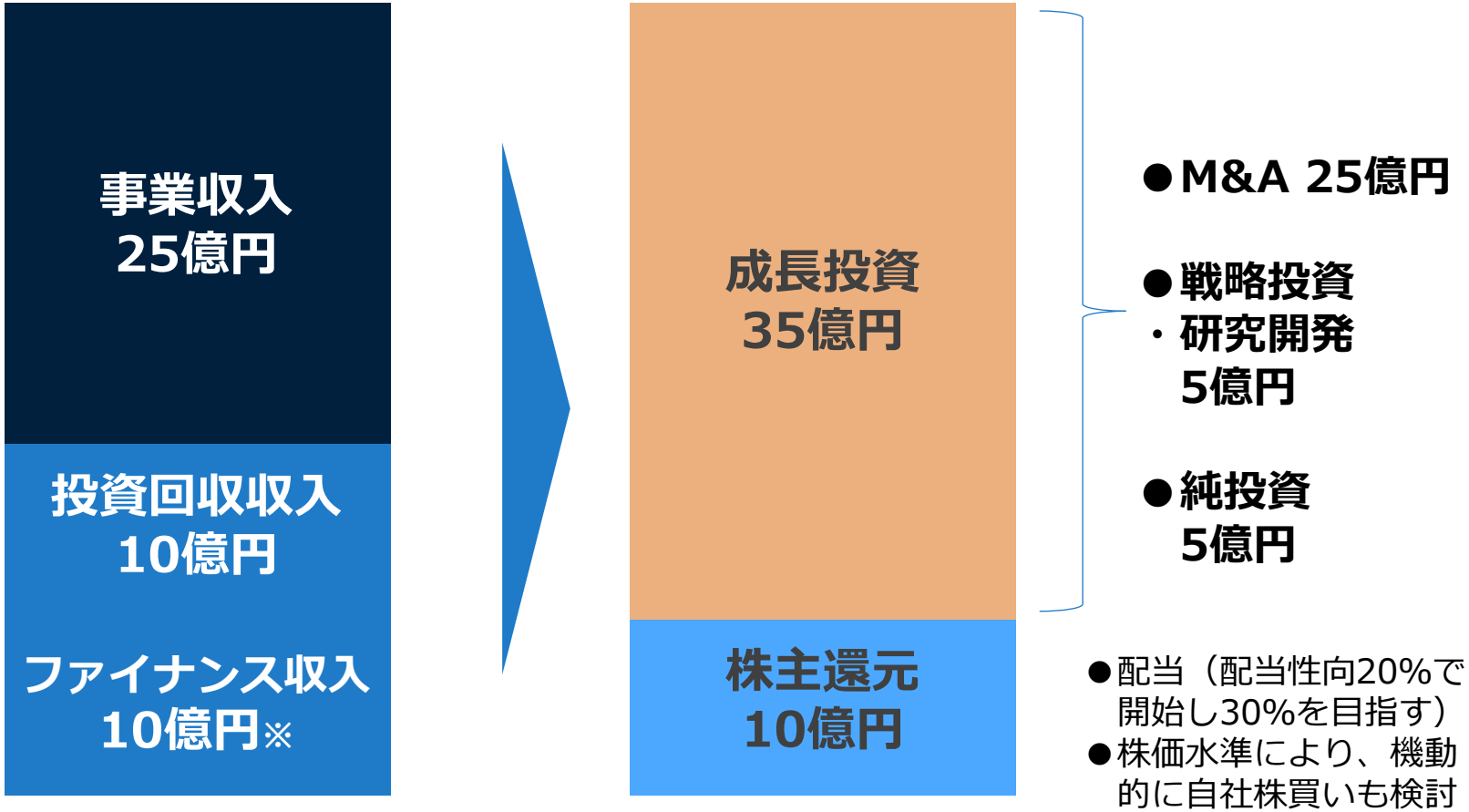
Copyright © Fuva Brain Limited

キャッシュアロケーション

中期経営計画期間合計

持続的な企業価値の向上と
安定した株主還元の実現

キャッシュアロケーション方針



※既発行新株予約権の行使による

株主還元方針

株主の皆様への還元強化

株主還元は経営の重要事項

株主還元の基本方針

- 当期、配当性向26%での**配当開始、配当性向30%を目指す**

  2026年3月期より配当開始、安定した株主還元の第一歩

- **累進配当**による安定した増配

  業績向上に応じた段階的な配当金額の増加を計画

- **株主優待制度**の継続

  クオカードによる株主優待を今後も継続実施

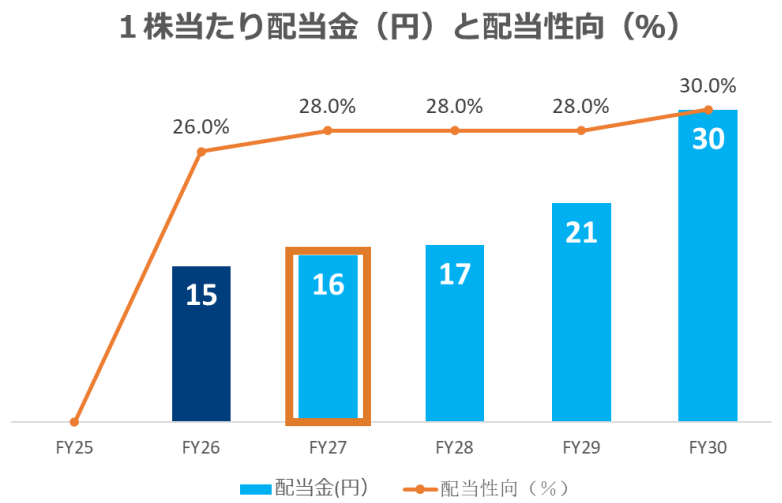
- 機動的な**自己株式**の取得

  株価や市場環境を考慮した柔軟な自社株買いの実施

- 中期経営計画**KPIと連動**した
  役員株式報酬を導入

  従業員に対しては、子会社含む従業員持株会
  （インセンティブ+15%）への加入促進

株主還元総額累計は、自社株買いを含め**１０億円**規模を想定



- 本資料は、当社グループの業界動向及び事業内容について、現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。
- これらの将来展望に関する表明の中には、様々なリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。
- 当社グループの実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。
- 本資料及び有価証券報告書の「リスク情報」にて、当社グループの実績に影響を与えうる事項の詳細な記載をしておりますが、現時点において認識している事項であり、今後の当社業績に影響を与えうる要素は当該「リスク情報」に掲載されている事項に限定されるものではないことをご留意ください。
- 本資料、データの無断転載はご遠慮ください。

Fuva Brain

Copyright © Fuva Brain Limited